

前回の意見交換会でのご意見（H29.1.18）

参考資料

- 【議題】
1. 行政向けガイドブックについて
 2. 今後の水平展開の在り方について
 3. その他

【ご意見】 今後の水平展開の在り方について

■ 資金調達について

（栗原委員）

- ・CSR活動等で、民間は受けてくれる公共団体が本気度（金や人を出す）を見せてくれないと動かない。
- ・（助成金制度は）一連の活動において市の役割が明確になっていることなどを前提条件にすると良い。

（小堀委員）

- ・海外では国がプロジェクトを募集している市民科学があり、国が主導することが重要。

（栗原委員）

- ・企業は自治体等が発注者となるため、主体である自治体に関係してほしい。

（中尾委員）

- ・自治体が認めるとのことがあると民間のモチベーションになる。

（亀山委員）

- ・ライオンズクラブ、イオンなど、様々な助成金制度がある。

（栗原委員）

・資金についてはもう少し様子を見てよいのでは。まずは、市民科学を企業・行政・市民に知らせていくことが第一のステップであると考えます。

（加藤特別委員）

- ・資金面に関する話は、来年度中にできるように協会・横浜市・企業（数名）等で構成される別チームで行う。



地域での取組を持続的に支援するため、本年度より検討を進める

■ 成功事例を増やすための戦略(きっかけづくり)

分類	ご意見	対応
ガイドブックの活用促進	<p>(栗原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブックを公共団体、NPOにお披露目するとよい。下水道展のプログラムに組み込みお披露目の場を作るべき。下水道展のワークショップ中で「市民科学にどう取り組むか」などを組み込んで、NPOの成功事例の発表も含めて、NPOだけではなく、自治体も参加したワークショップを行うとよい。 	<p>いい川づくり総会後に活動団体に向けてガイドブックを紹介、下水道展への参加依頼（5月23日に実施）</p> <p>下水道展において行政、NPO参加のシンポジウム開催に向けた準備（開催日：8月3日）</p>
	<p>(小堀委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道を専門としている方に、ガイドブックを知ってもらう必要がある。 	
	<p>(小堀先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したガイドブックをいろんなところで広める。巻き込んでいく。わたすだけではなく、一緒になって考えてもらうような形で広める必要がある。 	
	<p>(栗原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いい川づくりの総会(5月)でプレゼンを行うとよい。下水道展についてもお知らせしてもらうとよい。 	
	<p>(小堀委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数のワークショップを開催し、ガイドブックを持っていき、どのようなテーマが考えられるかをともに話し合い、仲良くなり、共通のワクワク感をもてる場をもつことが効果的だと考える。 	<p>モデル地区における検討において、当該自治体やNPO等の意見も踏まえ、可能な範囲で実施</p>
	<p>(小堀委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識せずに市民科学を行っている方もいるので、市民科学と全く違うことをやっている人を発掘するのも1つ。 	

■ 成功事例を増やすための戦略(きっかけづくり) つづき

分類	ご意見	対応
全国への 水平展開	<p>(加藤特別委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある自治体をどのようにみつけるか。こちらから働きかけをしながら、来年度は各ブロック(東北・仙台、関東・横浜、中国・岡山、九州・福岡 等)でやってみるのはどうか。1ブロック1自治体が集る場を来年度1回程度設けて、横浜市の事例を紹介しながら、やり方を指導し、年度内に計画づくりまでできるとよい。 	<p>今年度は関東での試行(2地区程度)を実施予定。そのため活動団体への意向アンケート実施、し、今後、関係自治体へ声かけする予定。</p> <p>地方への水平展開は、今年度の成果を踏まえ、今後検討</p>
	<p>(栗原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山は岡山市と理科大付属高校の結びつけでいけるかも。東北は東北水環境交流会で仙台市とのコラボはある。北海道GKPで札幌ともコラボできる。 	
大学・研究 機関への アプローチ	<p>(亀山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州は九州大学の先生からのアプローチもある。 	ガイドブックを送付
	<p>(栗原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水環境学会、土木学会などの発表の場にエントリーして発表するのもよい。学会に参加している先生方に、市民科学に協力して頂けるか、アドバイス頂ける専門分野はなにかを聞いてリスト化し、公共団体に渡すことで市民科学をコーディネートできる先生の情報を共有するのもよい。 	今後の検討課題
	<p>(小堀委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会等にエントリーして発表するのもよいし、学会には、シンポジウム、集会、事務局が認定した場などもあり、そちらに参加するのもよい。 	